

共同研究・受託研究名：人工光型植物工場でのレタス類栽培における可販収量の増大と電力消費量削減に向けた光条件の検討

研究代表者（所属）：江口雅丈（大阪府大・研究推進機構）

## 発表タイトル：可販収量から考えるレタス類の光環境の検討

○江口雅丈1，山口淳一2，円城寺歩2，紀藤亜美2，木村一貫2

所属：1大阪府大・研究推進機構，2大阪堺植物工場株式会社

キーワード：明期，光強度，可販収量，チップバーン

### 要旨

人工光型植物工場では、光源を電力で賄うため、光源にかかるコストが常に生じる。そのため、光源から照射された光が効率よく植物の成長に利用されるとともに、成長した植物が製品として販売可能であることが重要である。本発表では、本共同研究の概略について説明する。

## 本研究の目的

レタス類は連続光耐性が比較的高い

日積算光量子量が同じ場合明期が長くなるほど…

乾物重量の増加

葉枚数の増加

葉面積の増加

成育期間の短縮



チップバーンの増加

可食部の減少

明期を長くすることが利益になるか？可販という観点から検証